

据付工事説明書

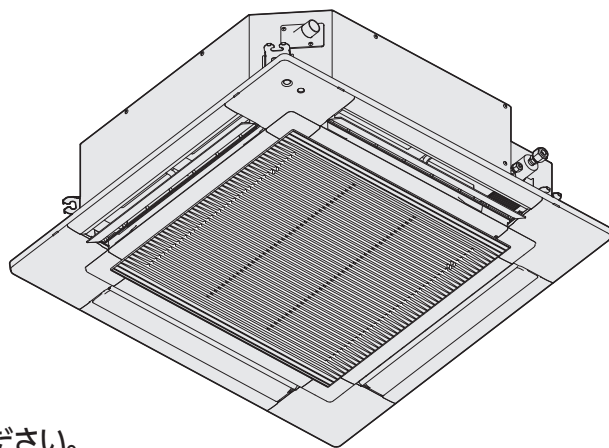
ガスヒートポンプエアコン

4方向天井カセット形
(S-UT1シリーズ)

冷媒R410A使用

室内ユニット品番

S-G28UT1	S-G71UT1	S-G140UT1
S-G36UT1	S-G80UT1	S-G160UT1
S-G45UT1	S-G90UT1	S-GE140UT1
S-G56UT1	S-G112UT1	



据付工事説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。
特に「安全上のご注意」(1~2ページ)は、施工前に必ずお読みください。

据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、「据付工事説明書」は、「取扱説明書」や「保証書」、「据付工事説明書(電気工事編)」とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人へ危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容(禁止事項)です。



実行しなければならない内容(強制事項)です。

警告



■ 室外ユニットは、ベランダの手すり近くに設置しない
(お客様が上に登り、手すりを越えるなどして落下のおそれ)

■ エアコンの設置や移設時、冷凍サイクル(配管)内に、
指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させない
(空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、
破裂、けがなどの原因)

■ 室外ユニット排気ドレン管と室内ユニットドレン管は
共用しない
(排気ガスの室内流入による中毒や熱交換器などの腐食の原因)

■ 電源配線をバンドなどで束ねて収納しない
(発熱、火災の原因)

■ 配線は途中接続しない
(接触不良や絶縁不良、許容電流オーバーなどにより、
感電や火災の原因)

■ 指定の冷媒(R410A)以外は、絶対に使用しない
(故障や破裂、爆発、発熱、火災などの原因)

■ ドレン配管を排水溝に直接入れない
(有毒ガスが室内に流入し、中毒などの原因)



■ 据付工事は、お買い上げの販売店や専門業者に依頼し、
工事には必ず指定の部品を使って確実に行う
(ユニットの落下や水漏れ、感電や火災の原因)

■ 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、
端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように
確実に固定する
(故障や発熱、火災の原因)

安全上のご注意 (つづき)

警告

- ❗ ■ フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締める
(締めすぎると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)
 - 付属品および別売品は当社指定の部品を使用する
(指定の部品を使用しないと、ユニットの落下、水漏れ、感電、火災等の原因)
 - 据付作業中に冷媒が漏れたときは換気する
据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
(冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因)
 - 配管やフレアナット、工具は冷媒R410A専用のものを使用する (R22用では、機器の故障のほか、冷凍サイクルの破裂など重大事故の原因)
※使用しているHFC系冷媒 (R410A) は、従来の冷媒 (R22) に比べ圧力が約1.6倍高くなります。
 - 電気工事 (アース工事を含む) は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、
「内線規程」およびこの「据付工事説明書」に従って施工する (感電、火災のおそれ)
 - 電源は、必ず専用回路を使用する (感電、火災のおそれ)
 - 漏電しゃ断器 (高調波対応品、全極開閉機能付) を取り付ける
(故障や漏電時に感電、火災の原因)
 - 台風などの強風・地震などに備え所定の工事を行う
(転倒などにより、けがの原因)
 - 据え付けは、重量に十分耐えられる所に確実に
(ユニットの落下による、けがの原因)
 - 据付作業では圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける
(空気などを吸引すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因)
 - 移設や修理時の冷媒回収は、冷媒回収機で行う
(室外ユニットへの冷媒回収は、破裂、けがなどの原因)
 - 小部屋へ据え付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策を行う
(冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因)
 - 配線をはさまないように、フタは元どおり確実に取り付ける (感電、火災の原因)
-
- ⚠ ■ アース工事 (D種接地工事) を行う
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話などのアース線に接続しない (感電の原因)
アース線は、ベランダの手すりにとらない (感電の原因)

注意

- ⊘ ■ 室外ユニットの吸込口やアルミフィンにさわらない
(けがの原因)
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所へ設置しない
(万一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、発火の原因)
- 接続部などから漏れた冷媒には直接さわらない
(凍傷の原因)
- ❗ ■ 冷媒配管の断熱は、この「据付工事説明書」に従って確実に断熱する
(正しく断熱されていないと、水漏れややけどの原因)
- ドレン配管は、「据付工事説明書」に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないように断熱する
(配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因)

- 据付工事説明書に記載されていない方法や各説明書に記載されていない本体及び付属品への追加加工、指定の部品を使用しない方法で据え付けられたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。
また、その据え付けが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

フロン排出抑制法 第一種特定製品

- 1) フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
- 2) この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。
- 3) 冷媒の数量は、本ユニットが接続されている室外ユニットや接続室内ユニット台数、配管長等により異なります。
システム全体での数値は、室外ユニットに表示されています。
- 4) 使用しているフロン類の地球温暖化係数は、2090です。



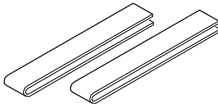
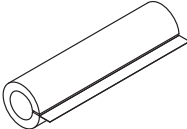
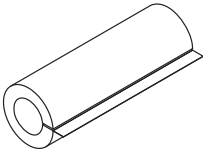
1. 付属品

付属品は据付工事に必要なため、工事が完了するまで捨てないでください。

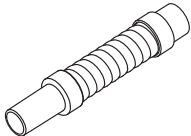

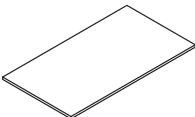
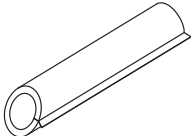
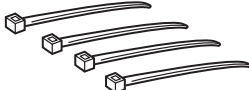
ユニット吊り下げ用

据付原寸図 (1個)	ワッシャー (8個)	ネジ (4個)
天井吊り下げ用 (梱包箱に印刷)	吊り金具 上下	据付原寸図用
		

冷媒配管用

断熱テープ (2個)	フレア断熱材 (1個)	フレア断熱材 (1個)
フレアナット接続部用 (液管・ガス管)	液管用	ガス管用
		

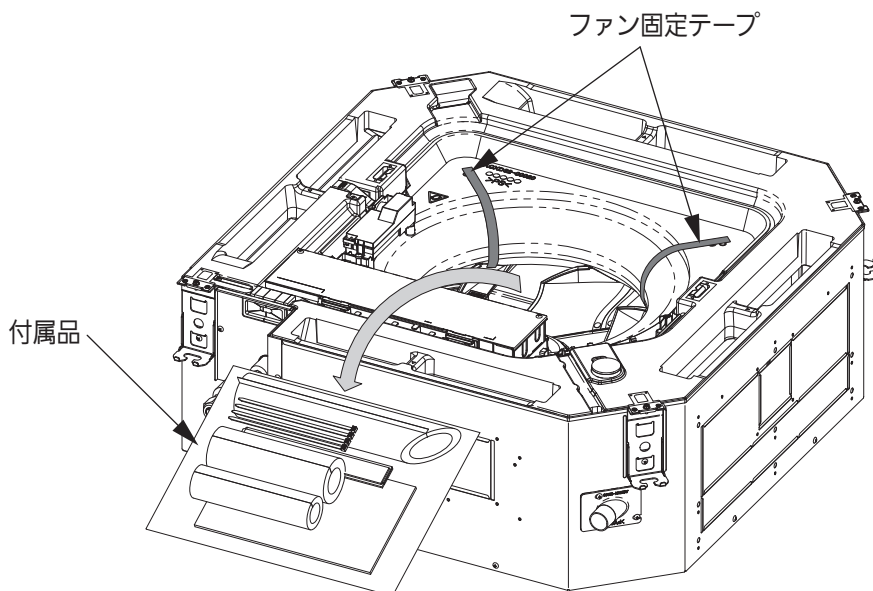
ドレン配管接続用

ドレンホース (1個)	ホースバンド (1個)	パッキン (1個)	ドレン断熱材 (1個)	結束クランプ (4個)
				

その他

取扱説明書 (1冊)、お客様相談窓口一覧 (1枚)
据付工事説明書 (1枚)、据付工事説明書 (電気工事編) (1枚)

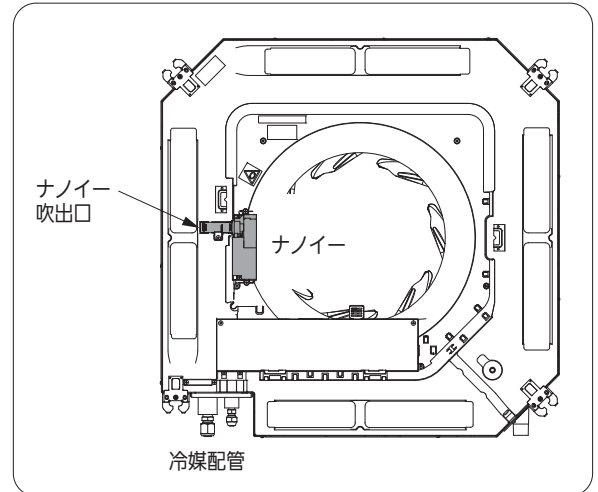
- 吊りボルトおよびナット (現地調達) は、M10 または 3/8" を使用してください。
- 付属品を取り出してください。
ファンを固定しているテープが残っていたら、はがしてください。
取り外さずに使用すると、故障の原因になります。



2. 別売品

1. 本室内ユニットのご使用には、別途天井パネル（別売品）および運転リモコン（別売品）が必要です。（ただし、運転リモコンは、同時運転マルチの子機には不要です。）
2. 別売品には、室内ユニット据え付け前に室内ユニット本体に取り付けするものもあります。室内ユニットの据え付け前に別売品の取り付けについて、それぞれに同梱されている据付工事説明書をご確認ください。
3. ご使用になる部屋の壁際に室内ユニットを据え付ける場合や、吹出口丸合フランジ（別売品）を使用する場合、室内ユニットの吹出口を閉塞するため、しゃ風材（別売品）が必要になります。

- しゃ風材は、ナノイー吹出部がある吹出口以外の吹出口に使用するよう、室内ユニットの据付方向にご注意ください。ナノイー吹出部がある吹出口にしゃ風材を取り付けた場合、ナノイーの効果はなくなります。



4. ワイヤレスリモコン（別売品）使用時のご注意

- 電子瞬時点灯方式（ラピッドスタート方式）またはインバーター方式の蛍光灯の近くに室内ユニットを据え付けると、ワイヤレスリモコン（別売品）の信号を受け付けないことがあります。（電子瞬時点灯方式またはインバーター方式の蛍光灯はグローランプがありません。）

- 蛍光灯による障害を防ぐため、室内ユニットと蛍光灯との距離は2m以上離してください。蛍光灯との距離を離しても障害が発生する場合は、次のどちらかの方法で処置してください。

① 赤外線フィルター《サービスパーツ扱い：CV6380156542（有償）》を室内ユニットの受信部に外から貼り付けてください。

② ワイヤードリモコン（別売品）を取り付けてください。

- テレビ、ラジオ、ステレオ、パソコン等の機器から1m以上離してください。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）

- ワイヤレスリモコン（別売品）では、エコナビ機能の操作はできません。この機能をご使用になる場合は、多機能ワイヤードリモコンを取り付けてください。（ワイヤレスリモコンと併用できます）

- ワイヤレスリモコン（別売品）では、ナノイー機能の操作はできません。この機能をご使用になる場合は、ナノイー機能に対応したリモコンが必要です。（ワイヤレスリモコンと併用できます。）

主な別売品一覧（別売品の組み合わせ可否については、カタログを参照してください。）

天井パネル（必須）	エコナビパネル※2／標準パネル／昇降グリル付エコナビパネル※2／昇降グリル付標準パネル／オイルガードパネル	
リモコン（必須）※1	多機能ワイヤードリモコン／標準ワイヤードリモコン／ワイヤレスリモコン	
フィルター	チャンバー取付形※3	超ロングライフフィルター／高性能フィルター
	グリル取付形	デオドラントフィルター／オイルミストフィルター
その他	外気取入丸合フランジ（φ100）／自然気化式加湿器／吹出口丸合フランジ（φ150）しゃ風材／断熱材キット	

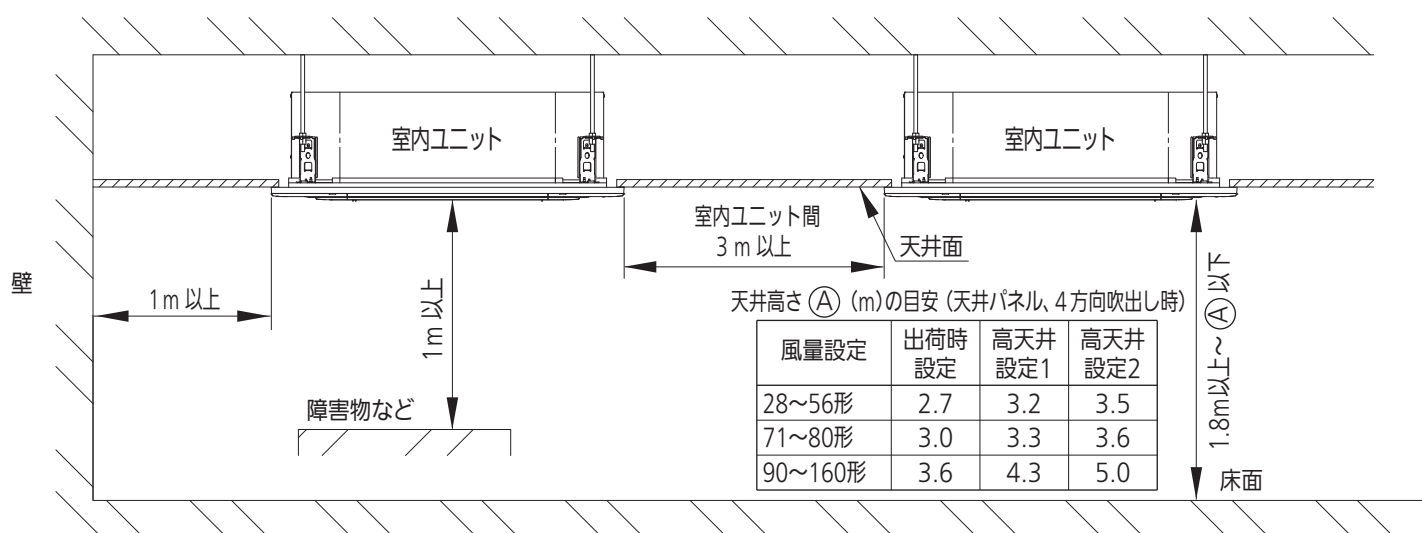
※1. ナノイー機能および内部クリーンのご使用、設定変更を行う場合は、ナノイー機能に対応したリモコンが必要です。（CZ-10RT4Bなど）

※2. エコナビ機能をご使用になる場合は、エコナビ機能に対応した運転リモコンおよび、エコナビセンサー（エコナビパネルもしくはエコナビセンサー壁設置形）が必要です。

※3. チャンバー取付形のフィルターをご使用になる場合は、フィルターの他にフィルターチャンバー（別売品）が必要です。

3. 据付場所

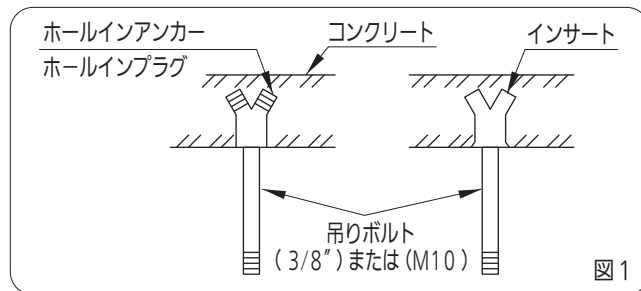
1. 室内ユニットの重量に十分耐える強固な天井に据え付けてください。
2. ● 冷気（暖気）が室内に行きわたりやすい場所に据え付けてください。
（吹出口および吸込口の風の通路には障害物がないこと。）
● サービス時の作業用スペースを考慮してください。
● 床面から天井面までが高い場合、風速分布が悪くなります。
※天井高さが、2.7m（28～56形）、3.0m（71、80形）、3.6m（90～160形）を超える場合は、風量アップの設定が必要です。
（設定方法については、「据付工事説明書（電気工事編）」を参照してください。）
3. 外気の入りやすい扉や窓の近くに室内ユニットを据え付けることは、できる限り避けてください。
（露がついたり、霧吹きや露飛びが発生することがあります。）
4. ドレン水の処理のしやすいところに据え付けてください。
 - ・ ドレン配管は屋内を通る部分をできるだけ短くしてください。
 - ・ 屋内を通る部分のドレン配管は必ず断熱してください。
 - ・ ドレン水は隣家などに迷惑のかからないようにしてください。
5. 室内ユニットと障害物および床面までの距離は下図に従ってください。



6. 騒音が増大しないように天井裏へ強固に取り付けてください。
7. 油を多量に使用する中華料理店などの調理場や、機械工場などに室内ユニットを据え付けしないでください。
（油が熱交換器や樹脂部品等に付着して能力の低下、霧吹きや露飛びの発生、樹脂部品の変形や破損の原因になります。）
8. 可燃性ガスの発生、滞留、漏れのおそれのあるところは避けてください。
（万一ガスが室内ユニットの周囲にたまると、発火・爆発の原因になります。）
9. 亜硫酸ガス、腐食性ガスの発生するところは、避けてください。
（銅管、ろう付け部が腐食し、冷媒ガスが漏れる原因になります。）
10. 高周波が発生する機器（インバーター機器、自家発電機、医療機器、無線通信機器）のあるところは避けてください。
（エアコンの誤動作や故障の原因になったり、それらの機器へ弊害を与える場合があります。）
11. 天井裏の温湿度が、30℃、RH80% を超えると思われる場合は、室内ユニット本体や本体に接続される部品及び接続部の結露防止のために、断熱材キット（別売品）、断熱材（現地手配）で強化してください。
12. 電圧変動の大きいところに室内ユニットを据え付けしないでください。
13. 有機溶剤が発散するところに室内ユニットを据え付けしないでください。
14. 火災警報器と吹出口は 1.5m以上離してください。
15. 室内の雰囲気が高湿度（乾球27℃、湿球24℃、相対湿度78%以上）にならない場所に据え付けてください。
本室内ユニットは、JIS露付条件にて試験を行い、基準を満たすことを確認しておりますが、高湿度雰囲気で運転すると室内ユニット本体表面、フレア断熱材、ドレン断熱材表面に結露し、露が落下する場合があります。

4. 据え付け前の準備

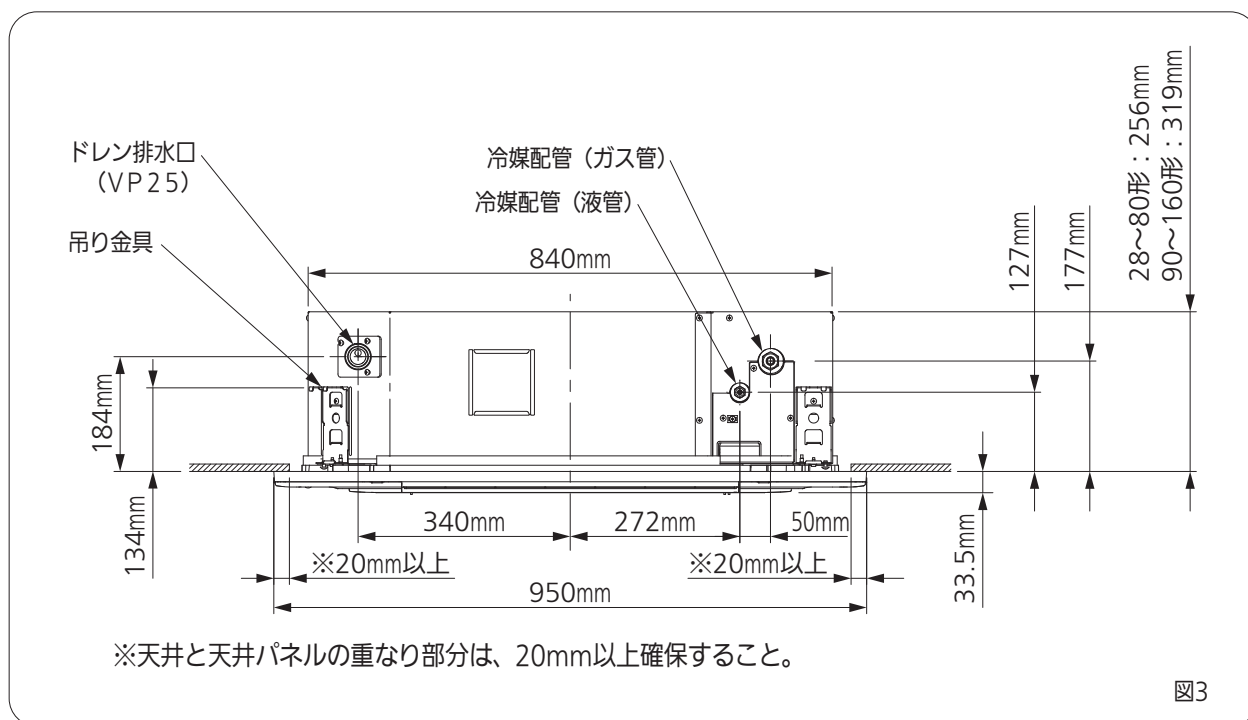
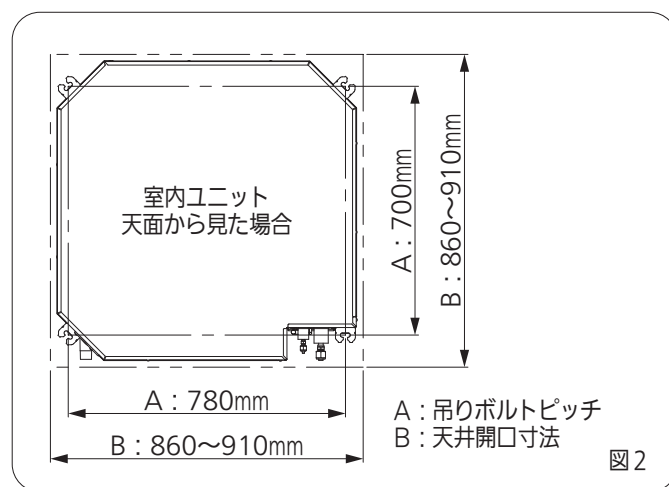
1. 吊りボルトの固定は右図（図1）あるいは他の方法により確実に固定してください。
2. 木造・簡易鉄筋の場合
 - 小屋梁（はり・平屋建て）または2階梁（2階建て）を強度メンバーとしてください。
 - ユニット吊り下げには丈夫な角材を用いてください。
 梁間が 900mm以下の場合＝60mm角以上の角材
 梁間が1800mm以下の場合＝90mm角以上の角材



3. 鉄筋の場合
 - 図1の方法で吊りボルトを固定するか、またはアングル・角材などを利用して吊りボルトを取り付けてください。

4. 天井が既設の場合
 室内ユニットを吊り下げる前に配管・配線を接続する位置まで、ドレン配管・冷媒配管・電気配線・リモコン線を設置してください。

5. 天井材の振動を防ぐために、天井骨組の補強および天井水平度の補正が必要となる場合があります。
6. 天井面の穴開けと吊りボルト位置の寸法は右図（図2）に従ってください。
7. 据付原寸図（梱包箱に印刷）で吊りボルトのピッチを出してください。吊り金具と本体およびパネルとの位置関係は下図（図3）の通りです。
 ナット（現地調達）およびワッシャー（付属品）は吊り金具の上下にご使用ください。



5. 室内ユニットの据え付け

本ユニットはドレンポンプを使用しています。必ず水準器で水平を確認してください。

天井材を張る前に、できるだけドレン配管工事・冷媒配管工事を完了してください。

天井裏への吊り込み

1. 本体の吊り込みは、据付原寸図を付属のネジで取り付け、吊りボルトのピッチを確保してください。
2. 吊りボルトの長さは、下図（図4）のように本体下面から18mm以上隙間があくようにしてください。吊りボルトの長さが長いと、天井パネルにあたり取り付けできません。

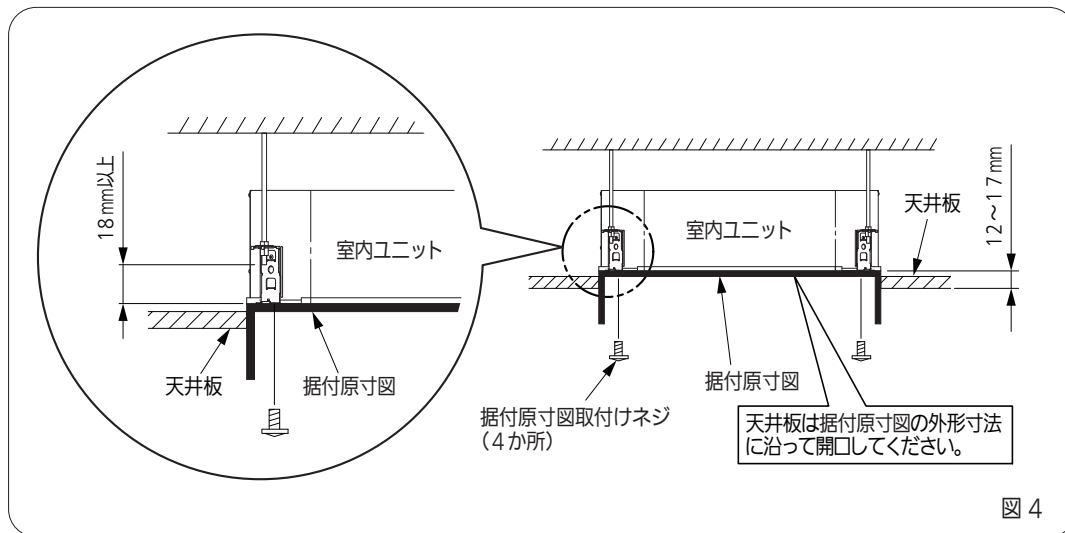


図4

3. 据付原寸図で天井開口寸法の確認ができます。
4. 吊りボルトに、付属のワッシャーとナット（現地調達）を取り付けてください。下側のナットは右図（図5）のようにダブルナットを使用してください。（不備があると、ユニットが落下してけがをするおそれがあります。）
5. 本体を持ち上げ、吊り金具の切欠部に吊りボルトを差し込んでください。
6. 本体と天井下面の寸法が12～17mmになるように調整し、吊り金具上下のナットを締め込んでください。
7. 輸送用のファン固定テープ（3ページ参照）があれば取りはずしてください。
8. 室内ユニットは水平に設置してください。（特にドレン配管側が高くなるように傾斜設置すると、フロートスイッチの誤動作をまねき、水漏れの原因となります。）
※天井パネルを据え付け後、室内ユニット吊り込み高さの微調整ができます。
詳細は天井パネルの据付工事説明書を参照してください。
9. 吊りボルトに耐震用の筋交い（現地調達）を取り付ける場合、筋交いは互いに干渉させないように交差部を金具固定してください。（図6）（干渉により騒音の原因となります。）
10. 吊り金具部は塗料等で固着させないようにしてください。（吊りボルトと吊り金具が固着し、ユニットの振動が大きくなる原因となります。）

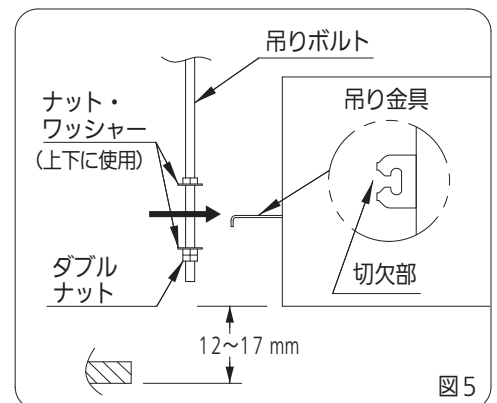


図5

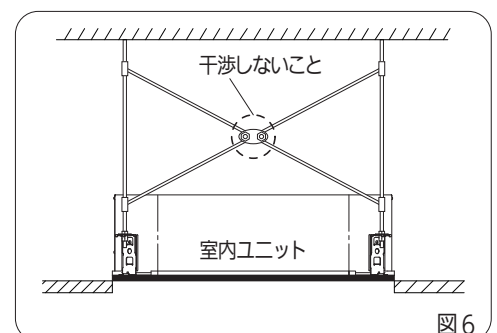


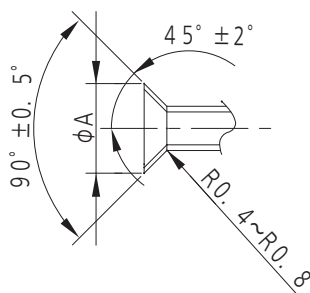
図6

6. 冷媒配管

- 配管接続部のフレアナットをはずすときおよび配管接続の際にフレアナットを締め付けるときは、必ずトルクレンチを用いダブルスパナにて行ってください。
また、配管接続の際にフレアナットを締め付けるときは、必ずトルクレンチにて行ってください。
(フレアナットを締めすぎると、フレア部を破損し、冷媒漏れによる酸欠事故の原因となります。)
- フレアナットの締め付トルクは、下表を目安に締め付けてください。
- 配管接続用フレアナットは必ず、ユニット本体に取り付けのもの、または R410A用(2種)を使用してください。
また、冷媒配管の肉厚は、下表のものを必ず使用してください。
(一般のフレアナット(1種)、また板厚の薄い薄肉配管では、従来の冷媒(R22)に比べ圧力が約1.6倍高くなるため、破裂、けが、または冷媒漏れによる酸欠事故の原因となります。)
- 据え付けや移設の場合は、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外を混入させないでください。
(空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり破裂などの原因となります。)
- 冷媒配管は JIS H 3300「銅および銅合金の継目無管」の C1220 のりん脱酸銅を使用してください。
また、冷媒配管の肉厚は、下表のものを必ず使用してください。
有害なイオウ、酸化物、ゴミ、切粉(コンタミネーション)の付着がないことを確認してください。
- フレア接続時フレア部に塗布する冷凍機油は、少量のエステル油またはエーテル油を使用し、またその際にネジ部や樹脂部品に油が付着しないように注意してください。
(樹脂部品の強度が弱くなり割れの原因となります。)
- 冷媒配管には断熱工事を確実に行ってください。またガス管側の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
(指定通りの断熱がされていないと水漏れの原因となることがあります。)
- 高温/高湿度(30℃、80%RH以上)の環境で使用する場合は、断熱材キット(別売品)、断熱材(現地手配)で強化してください。(強化しないと、断熱材表面に結露することがあります。)

1. 冷媒配管のしかた

- 室内ユニットのフレアナットをはずしてください。
- 液管・ガス管(現地調達)をフレア加工してください。(下図・表参照)

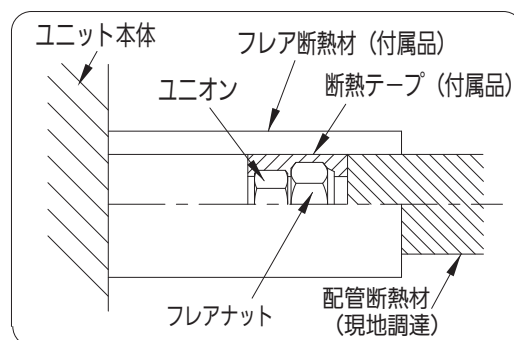


パイプ径 (mm)	締め付トルク N・m (kgf・cm)	銅管肉厚 (mm)	フレアφA寸法 (mm)	使用工具の 推奨腕長さ
φ9.52 (3/8")	34 ~ 42 (340 ~ 420)	0.8	12.8 ~ 13.2	200mm 程度
φ12.7 (1/2")	49 ~ 61 (490 ~ 610)	0.8	16.2 ~ 16.6	250mm 程度
φ15.88 (5/8")	68 ~ 82 (680 ~ 820)	1.0	19.3 ~ 19.7	300mm 程度

2. 配管接続作業完了後、リークディテクタや石けん水で配管接続部からガス漏れのないことを確認してください。

3. 配管の断熱のしかた

- 右図に従って液管・ガス管とも、断熱してください。
(フレアナット部に断熱テープ(付属品)を巻き付け、さらに配管接続部にはフレア断熱材(付属品)を巻き付けてください。)
断熱をしないと水漏れの原因となります。
- 断熱材はユニット本体に必ず突き当てて巻き付けてください。
また、ユニットを吊った状態でフレア断熱材の合わせ目が上を向くように巻き付けてください。ガス側配管の断熱材は、必ず耐熱温度が120℃以上のものを使用してください。



4. ガスヒートポンプエアコンは「高圧ガス保安法」、「冷凍保安規則」および高圧ガス保安協会制定の「冷凍空調装置の施設基準」を満たすように設置し、必要なものは届出をしてください。

7. ドレン配管

※付属品は必ず当社指定の部品を使用してください。

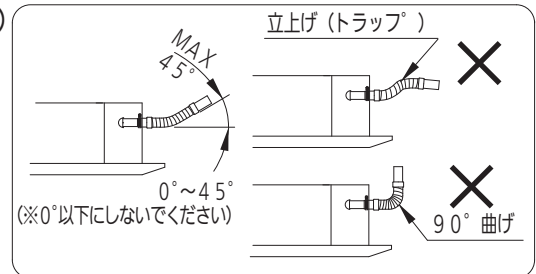
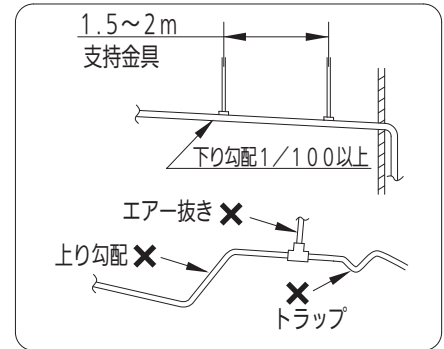
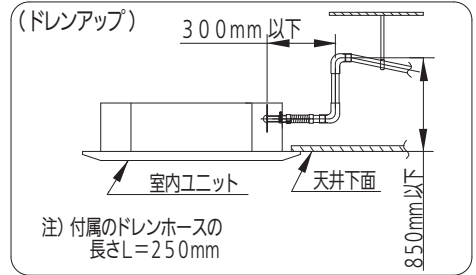
指定外の部品を使用すると、室内ユニット排水口の破損による水漏れのおそれがあります。

1. ドレン配管施工上のご注意

- ドレン配管高さを高くしたい場合は、天井下面より850mmを限度として上げることができます。(※絶対に850mmより高くしないでください。)
- ドレンアップ以降より上り勾配で配管しないでください。(ユニット停止時ドレン水が逆流して水漏れの原因になります。)
- エアー抜き管は付けないでください。(ドレン水が吹き出ることがあります。)
- 途中で立上げやトラップを作らないでください。(異常音の原因になります。)
- 下り勾配は(排水側を下に)1/100以上とってください。
- 集中ドレン配管がある場合は、配管サイズに注意してください。
- ドレン配管には圧力がかからないようにしてください。ドレン水が逆流し水漏れの原因になります。
- 必ず付属のドレンホースを使用すること。
- 付属のドレンホースは90°曲げで使用しないでください。(最大45°)
- 室内ユニットのドレン配管口には、接着剤を使用しないこと。

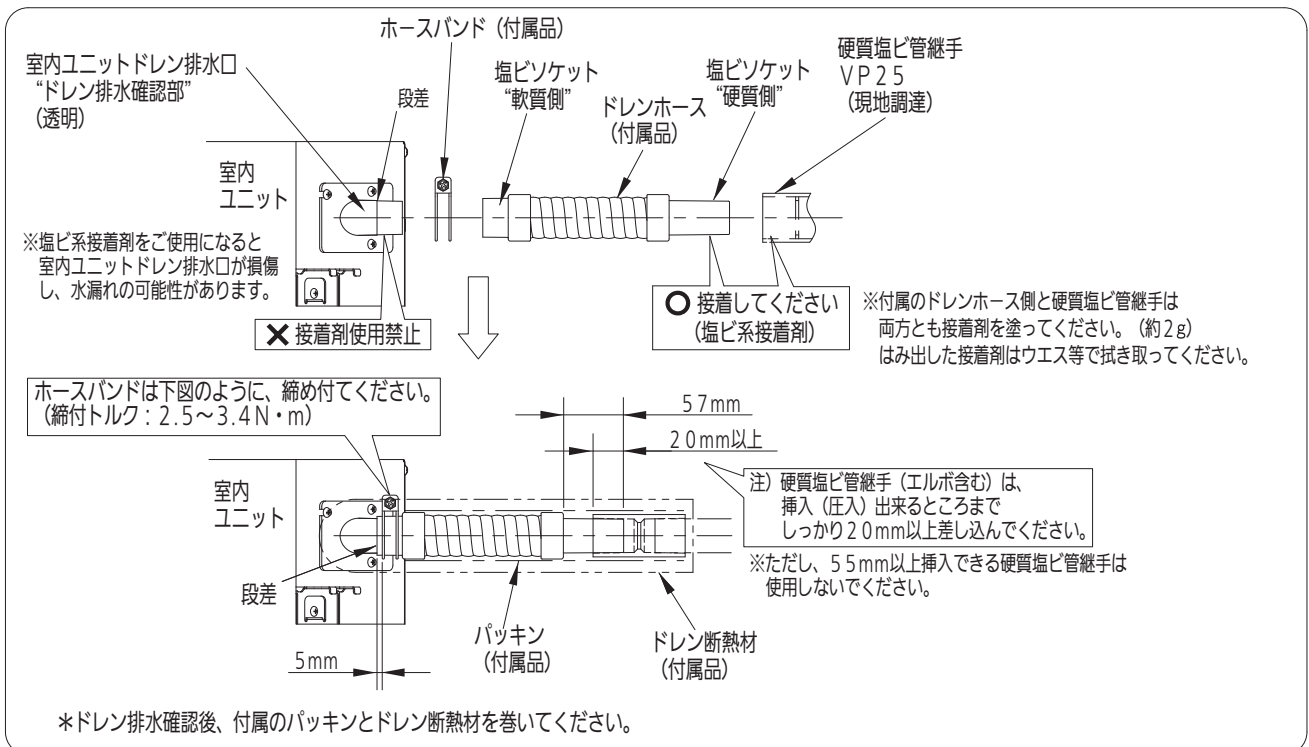
2. 室内ユニットのドレン排水口と付属ドレンホースの接続

- 室内ユニットのドレン排水口にホースバンドを差し込んでおきます。
- ドレン排水口にドレンホースの塩ビソケット(軟質側)を差し込んでください。(接着剤は使用しないでください)
- 下図のようにドレン排水口の段差までドレンホースを挿入し、段差から5mmはなしてホースバンドで、しっかりと締め付けてください。(締付トルクは2.5~3.4 N・m)
・ホースバンド締付位置は必ず上側にしてください。



3. ドレン配管のしかた

- ドレンホースの塩ビソケット(硬質側)に硬質塩ビ管継手VP25(現地調達)を接続してください。
- 接続時、ドレンホース側と硬質塩ビ管継手には両方とも接着剤を塗ってください。(約2g)
- ドレン配管を接続する時、室内ユニット側の配管に力を加えないようにし、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。



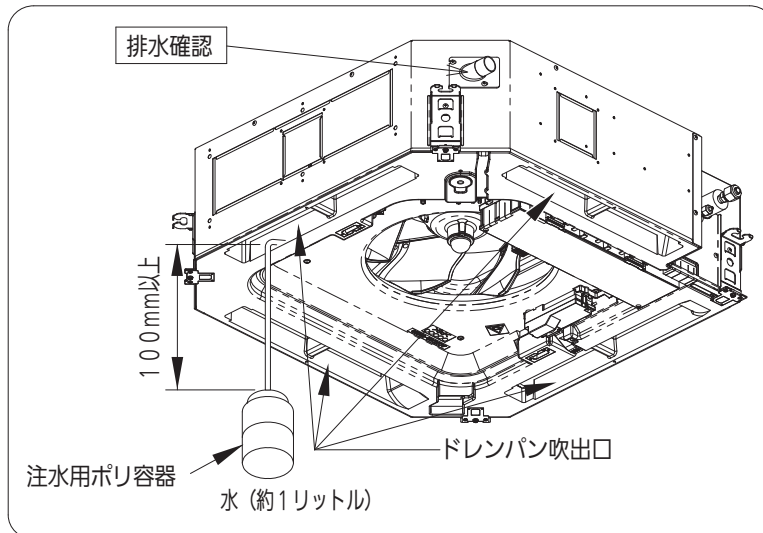
7. ドレン配管 (つづき)

4. 排水の確認

ドレン配管接続工事の完了後に、排水が確実に行われること、および配管接続部から水漏れのないことを確認してください。

(作業前にバケツやウエスを用意してください。)

- 下図の通り、ドレンパン吹出口よりドレンパン内に排水確認用の水約1リットルを少しずつ入れてください。



A 電気配線が完了している場合

- A-1 冷房運転をしながら室内ユニットのドレン排水確認部 (透明) から排水がされているかを確認してください。また、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。

B 電気配線が完了していない場合

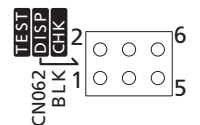
- B-1 電装ボックス内の電源端子板 (R, S 端子) に单相200Vを接続してください。この時点で、電源は入れないでください。

- B-2 室内コントロール基板のCHK (6Pプラグ⑤-⑥間) をワニグチクリップ等で短絡してください。

※CHK (6Pプラグ⑤-⑥間) を短絡すると、ファンも回転しますので注意してください。(けがをするおそれがあります。)

- B-3 電源を入れてください。電源を入れるとドレンポンプが運転しますので、室内ユニットのドレン排水確認部 (透明) から排水がされているかを確認してください。また、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。

- B-4 排水確認が完了したら電源を切り、CHKの短絡をはずしてください。



5. ドレン配管断熱のしかた

- ドレン排水確認後、付属のパッキンを室内ユニットのドレン配管接続口の付根よりドレンホースを被うように隙間なく巻いてください。このときパッキンの合わせ目は上向きにしてください。その上に付属のドレン断熱材を巻いてください。
- 硬質塩ビ管継手VP25 (現地調達) も必ず断熱材 (現地調達) を巻いてください。断熱をしないと水漏れの原因となるおそれがあります。

8. 据付工事完了後のチェック項目

室内・外ユニット、天井パネルの据付工事および電気工事完了後、下記項目についてチェック願います。

作業名称	No.	チェック項目	チェック欄 <input type="checkbox"/>	予想される不具合・確認事項
据付工事	1	室内ユニットは 3. 据付場所 の15項目を満足していますか	<input type="checkbox"/>	軽傷を負うことや、財産の損害が発生する等の可能性があります。
	2	「銀イオン系抗菌剤についての注意事項」（電装ボックスふたに貼り付け）の表に設置年・月・日を記載しましたか	<input type="checkbox"/>	交換時期がわからない。
配管・配線工事	3	漏電しゃ断器（全極開閉機能付）は取り付けましたか	<input type="checkbox"/>	故障や漏電時に感電、火災の原因になることがあります。設置工事、アース・配線の確認をお願いします。
	4	別売品等の誤取り付け・誤配線はありませんか	<input type="checkbox"/>	
	5	アース工事は行いましたか	<input type="checkbox"/>	
	6	電源配線・接続線・信号線の誤配線・ネジの緩みはありませんか	<input type="checkbox"/>	
	7	配線の太さは規定通りですか	<input type="checkbox"/>	
	8	電源電圧は本体銘板と同じですか	<input type="checkbox"/>	
	9	気密試験・フレア継手および溶接部のガス漏れ確認を行いましたか	<input type="checkbox"/>	ガス漏れがあると機器の性能低下だけでなく、環境に大きな影響を与えますので迅速に修理をお願いします。
ドレン・排水確認	10	室内ユニットのドレン接続部（樹脂部）を加工したり、接着剤を塗布していませんか	<input type="checkbox"/>	樹脂部が割れて水漏れする場合があります。追加加工や接着剤を塗布してしまった場合は、ドレン接続部を交換してください。
	11	水漏れはありませんか	<input type="checkbox"/>	水漏れする可能性があるため、排水不良や水漏れ箇所があった場合は、ドレン配管の修正をお願いします。
	12	室内ユニットのドレン配管下り勾配は、規定通りとれており（1/100以上）、スムーズに流れていますか	<input type="checkbox"/>	
断熱工事	13	配管継手部（冷媒配管・ドレン配管）も含め、設置場所に合致した断熱工事を確実に行いましたか	<input type="checkbox"/>	機器の性能低下だけでなく、水漏れが発生する可能性がありますので、適切に断熱工事をお願いします。
別売品	14	しゃ風材（CZ-160CFU5）取り付け時、ファンタップ設定の変更を行いましたか	<input type="checkbox"/>	風量減少により冷房時吹出温度が低下し、露付きが発生する可能性があります。必ず設定変更をお願いします。
試運転	15	異常な音の発生はありませんでしたか	<input type="checkbox"/>	ファンの接触、室内ユニットの歪み等の確認をお願いします。
	16	室内ユニットより冷風・温風は吹き出しましたか	<input type="checkbox"/>	機器が動作しない。または、他システムと誤配管・誤配線になっていないか確認をお願いします。
	17	燃料ガス漏れ検査を行いましたか？	<input type="checkbox"/>	運転不能・焼損